

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第102号 2024年3月

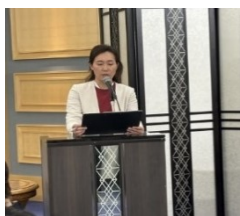
事務局: 〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel: 03-3713-1684

発行人: 川崎 秀一 編集長 細谷 清 事務局長 吉野 博明

ホームページURL: <http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/>

2024 年新年会を開催

2024年1月21日(日)にホテル雅叙園東京・「華しずか」の間でご来賓に青木英二目黒区長、山口晋一早稲田大学総長室調査役(校友連携・社会連携担当)兼 校友会副事務局長をお迎えし、また、特別ゲストに早稲田大学落語研究会の方々に参加いただき、出席者の総数は66名で、田添麻友幹事の司会の下で16時30分より新年会を開催しました。



司会: 田添麻友幹事

最初に川崎秀一会長が挨拶(2頁に別掲)をして、「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに会を運営して皆さんが活躍されることを祈念する挨拶をされました。

次に青木英二目黒区長より新年のご挨拶を頂きました。

ここで、川崎秀一会長より目黒区サクラ基金に対する寄付金が青木目黒区長に手渡されました。



来賓ご挨拶:
青木英二目黒区長



サクラ基金贈呈

次いで総長室の山口氏に、ご挨拶を頂きました。「WASEDA サポーターズ倶楽部」は2022年4月より「早稲田大学応援基金」に生まれ変わった事、また早稲田スポーツの中でも人気を博してきた野球、駅伝、ラグビーは、世代に関わらず多くの方から注目され、数々のご支援を受けてきたが、その輝かしい伝統を持つ三部門を強化する為に、「早稲田スポーツ強化募金」を昨年12月に開設した事を披露して、校友の理解と支援を求めるご挨拶をされました。



山口晋一
総長室調査役

続いては、高座での落語三番でした。星野屋玄馬(吉村有蘭・文化構想学部1年生)が『寿限無』を、七志野権兵衛(岩瀬 優・北里大学4年生)が『鮑のし』を、寅の家ようかん(吉野秀尋・文化構想学部2年生)が『蔵前駕籠』を演じました。



星野屋玄馬



七志野権兵衛



虎の家ようかん

休憩後に川崎真樹子幹事の乾杯の発声により懇親会が始まりました。

宴たけなわとなつて、初参加者の小出統英さん(1972教育)、岩本昭治さん(1974商)、福島日輪さん(2021文化構想)、福島理生さん(家族)、三沢美奈子さん(1978教育)、広井幹也さん(1974政経)、平田結莉さん(2012スポーツ科学)、猪瀬龍馬さん(2010教育)の皆さん8人の紹介がありました。



乾杯: 川崎真樹子幹事



新参加者紹介

広井幹也幹事より現在、一時中断中のカラオケ部会をもう少し活動の輪を広げて、「演奏を楽しむ、演奏に合わせて歌う、そして踊る、音楽を鑑賞する、カラオケで歌う等」、幅広く音楽を楽しむ会として再編成を検討している旨の説明があり、広井幹事、山内幹事のギター演奏で、『あの素晴らしい愛をもう一度』を皆で合唱、又それに合わせて中上美代子副会長がワンポイント・エクササイズを行いました。



音楽を楽しむ会
広井・山内幹事



エクササイズ
中上副会長

続いて、本年米寿を迎える大野利幸相談役、保井 正相談役、浅海敏之相談役、堀井良造会員を祝い、瀬下副事務局長、佐伯（友）、上田、福島（日）会員より、お祝いの花束が贈呈されました。



米寿花束贈呈；
保井、大野、浅海、堀井各氏

皆さんが歓談中の会場の風景をご覧ください：

会場風景



令和6年能登半島地震の被災者の方々への開会冒頭の黙禱と支援募金を小杉 哲ボランティア部会長他の皆さんが行い多くの寄付を頂きました。



募金
小杉哲ボランティア部会長

盛会の中、司会より校歌斉唱が告げられ、松田哲也会員による指揮で、都の西北を斉唱して母校の名を讃えました。

中締め伊東副事務局長は挨拶と参加者への謝辞を述べて三三七拍子で締め、参加者の皆さんで写真を撮って、散じました。



校歌斉唱
指揮：松田哲也会員



校歌斉唱



中締め
伊東佳行
副事務局長



集合写真

（細谷記）

＜川崎会長の挨拶＞

皆様あけましておめでとうございます。それぞれにゆっくりとお正月を過ごされたことと思います。

昨年はコロナ禍も少し落ち着きを見せて、お陰様で各部会も活発に活動する事が出来ました。皆様もそれぞれの部会活動を楽しんで頂いた事と思います。

さて、今年は辰年、甲辰（きのえねたつ）であります。成功と言う芽が成長していき、姿を整えていくと言った縁起の良さを表しているとの事、良い年になって貰いたいと願います。世相は色々ありますが、会員各位が健やかに過ごされることを祈念しております。

話は変わりますが、お陰様で目黒稲門会も発足後2024年1月末で25年目を迎えます。歴史を紡いで四半世紀が経った訳であります。これも、ひとえに各会員はもちろんの事、これまで会の運営を支えて頂いた歴代会員の努力のお陰と感謝申し上げます。

また、その年の4月から発刊された会報が、昨年の夏100号、11月には101号となりました。これも色々変遷がありましたが、諸先輩のご苦勞のお陰で今日を迎えております。苦勞話は100号に特別座談会として掲載されておりますのでお読みになった方も多いと思います。なお、目黒稲門会HPをご覧ください。会報の発刊号から最新号までアーカイブスで保存されていていつでもご覧いただけます。興味のある方は、覗いて見てください。

この様に歴史を積み重ねて来た目黒稲門会を今後とも、現役会員の活動そして新しい会員を多く迎えて親睦を深め更なる発展を続けて行きたいと思う所であります。

今年の総会は7月7日七夕の夕べ、ここ目黒雅叙園にて25周年記念祝賀会を兼ねて開催する予定であります。夏にふさわしいワイアンの演奏、フラダンスなどもお楽しみ頂けるよう準備を進めておりますので、会員の皆様の大勢の参加をお願い申し上げます。

時代の変化の中で、部会活動も徐々に変化を遂げております。ネットの活用など非対面での活動もあります。現在、一時中断しておりましたカラオケ部会ももう少し活動の輪を広げて幅広く音楽を楽しむ様な会として再編成を検討しております。演奏を楽しむ、演奏に合わせて歌う、そして踊る、音楽を鑑賞する、カラオケで歌う等。この様な活動で幅広く会員の参加を求めて行きたいと考えております。

今年も更に各部会活動が活発化し皆様により楽しんで頂ける目黒稲門会であることを期待しております。

「明るく、楽しく、元気よく」のモットーのもと皆様がお元気で活躍されますことを祈念して簡単ではありますが、新年のご挨拶とさせていただきます。



川崎秀一会長

各 部 会 か ら の 案 内 ・ 報 告

俳句部会

第 162 回「俳句部会報告」

日時 2024 年 1 月 8 日 (月) (順不同)

川井素山	水仙の ^{なぞえ} 傾に海の 照り溜めて
保井寶正	餅焼きて 去年の禍ひ 裏返す
佐久間喬	皆帰り 爺婆二人 餅を焼く
丸山酔宵子	荒海に 香り盗られし 野水仙
吉田啓悟	小春日や 茶室の手水 南向
青木英林	七草に 余命を託す 八十路かな
山本草風	客迎へ 妻の背中の 淑気かな
佐久間たか子	駄足の 先に人がきあり 福袋
渡辺鯨波	餅焼いて トラウマーつ 癒しけり
後藤克彦	定年や 伊達の薄着で 年を越す
原 晶如	一陽来復 つま先立ちで 貼るお札
永井正孝	椋鳥の 声もて疎林 膨らみぬ
青葉ひかる	深紅なり 麗し椿 燃え尽きし
中村朋子	黄水仙 少しおしやべり かもしれぬ

中原主宰の選んだ秀句と評:

水仙の 傾 (なぞえ) に海の 照り溜めて

水仙が海添いの斜面に咲いており、海からの光を受けている景。

餅焼きて 去年の禍ひ 裏返す

正月に餅を焼き昨年の不運な出来事を良い方へ裏返すとしたところがうまい。

一陽来復 つま先立ちで 貼るお札

お札とは千社札のことで神社仏閣に参拝記念に貼る貼るには許可を得る必要があるが、最近殆どの処で禁止されている 目立つような高い所をつま先立ちであらわしている。

椋鳥の 声もて疎林 膨らみぬ

椋鳥は市街地の木に鈴なりに止まって鳴くこと多くかなりうるさい その声をまばらな疎林膨らむとしたところがよい。

俳句部会長 佐久間 喬

麻雀部会

12 月 18 日(月)に第 90 回定例会を権之助坂“華”にて開催しました。参加者は 2 卓 8 名と少し寂しい状態が続いています。

結果は、石橋氏が優勝、2 位は岩本氏、3 位は村上、ブービー賞は山内氏でした。

表彰式後に近くの“庄や”で忘年会を行いました。

麻雀部会長 村上 柊

囲碁部会

2023 年度リーグ戦下期第 1 ラウンドは、12 月 3 日(日)で終了。最終結果は、1 位保井氏、2 位小倉氏、3 位永田氏でした。

12 月 9 日(日)、Zoom 忘年会を開催。参加者 6 名。

12 月 16 日(土)より 2023 年度リーグ戦下期第 2 ラウンドを開催。参加メンバーは、第 1 ラウンドと同じ保井、永田、菊地、小倉、小岩、山住、塩崎、市川の名氏 8 名。最終結果は、1 位市川氏、2 位山住氏・小岩氏・塩崎氏でした。

囲碁部会長 市川 亘

スポーツ観戦部会

12 月 3 日(日)、国立競技場で行われた伝統の関東大学ラグビー対校戦早稲田大学対明治大学を 14 名の会員と応援観戦しました。早稲田は、後半 21 分までに 3 対 41 と大差をつけられましたが、ここから奮起。5トライを挙げ、8 点差にまで詰め寄りましたが、最後は 2 トライを奪われて力尽き、35 対 58 で明治に敗北、秋季対校戦 3 位となりました。



スポーツ観戦部会長 狩野 俊夫

いち月会

12 月 4 日(月)、自由が丘「遊」(日本料理店)で忘年会を開催、18 名が参加。菊地幹事の朗読

『愛染かつら』に加え、広井会員のギター伴奏での全員合唱「また逢う日まで」、「さらば青春」で多いに盛り上がりました。



いち月会部会長 菊地 崇之

ボランティア部会

12 月 8 日(金) 9 時半に 10 名の会員が区民センタに隣接する田道ふれあい橋に集まり、目黒川沿道の清掃作業を行いました。

次回は 2024 年 3 月 8 日(金) の予定です。

ボランティア部会長 小杉 哲



ウォーキング部会

鎌倉ウォーキング (2023 年 11 月 22 日)

大内久美子 (1986 年商)

私は神奈川県生まれで金沢文庫に住んでいたこともあり鎌倉には少なからず行く機会があったのですが、今回のウォーキング部会の企画には今まで行ったことのない魅力的な場所も多かった為、母と二人で参加致しました。

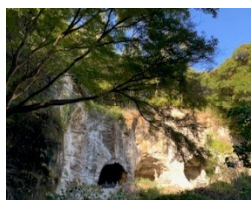
集合場所の鎌倉駅に降り立つと気持ちの良い秋晴れの空。改札前で、吉野さんの掲げる「目黒稲門会」の旗を見た女性が声を掛けてきました。ご自分は鎌倉稲門会員とのこと。

(私から見れば若い) 素敵な女性で、これをご縁に是非、交流を・・・と言いたい気持ちをこらえて見送った、一瞬の出会いでした。

13時に全員集合。参加者10人バスに乗り報国寺へと向かいました。『報国寺』は写真の通りに竹林の寺として有名。上品に整えられた枯山水の庭の向こうに並んだ“やぐら”(横穴式墳墓)もまた印象的でした。



『報国寺』(大内撮影)



“やぐら”(横穴式墳墓)



『旧華頂宮邸』

散策を楽しみつつ、次の『旧華頂宮邸』へ。

昭和4年築、ハーフティンバースタイルの素敵な洋館です。

参加された市川さんによれば、華頂宮は伏見宮の分家のような存在で、第3代博恭王(伏見宮博恭海軍元帥)には戦時下の日本裏面史とも言える大変貴重な逸話があるそうです。

そして次は『浄明寺』に行きました。

ここは鎌倉時代初期に極楽寺と呼ばれ、真言宗のお寺でした。それが、鎌倉時代中期に臨済宗のお寺となり、現在の名前に改められました。代わりに鎌倉の西方に極楽寺が造られました。



『浄明寺』

浄明寺は室町時代に鎌倉五山の第五位の寺とされました。寺の裏山には鎌倉の名称の起源になったとされる鎌足稲荷神社があります。

最期に本日の目玉である『一条恵観山荘』の庭園を堪能しました。

一条恵観山荘は元々京都の西賀茂に江戸時代初期建てられた、皇族の別荘でした。それが昭和初期に鎌倉に移築され、鎌倉の桂離宮と呼ばれています。2017年に一般公開となりました。

京都に行かなくても京都を堪能できます。以下言葉は控えて、写真で語ります。ご堪能下さい。



『一条恵観山荘』の庭園

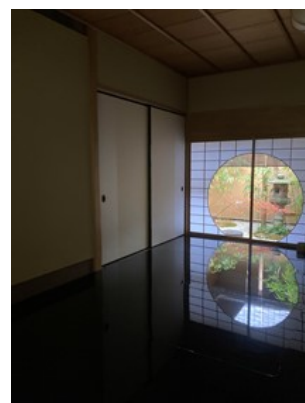


『一条恵観山荘』の庭園



華手水

華手水も心憎い演出でした。



鏡面反射の部屋

起伏に富む眺めと川のせせらぎを楽しむ庭内カフェも女性客で満席、大人気の程がうかがえます。

重要文化財である建物でも月に何度か人数限定の見学ツアーがある等、再訪時の楽しみを残してくれました。

ちなみに、ここは二つのバス停の間にありますが、スタッフ女性のアドバイスで帰りは敢えて鎌倉駅と反対方向のバス停から乗りました。果たして駅に近い方のバス停(浄妙寺や報国寺の最寄り)には長蛇の列。乗れない人も多かったようです。

秋の鎌倉、おそろべし。

(写真は一葉を除き市川亘さんによる撮影です)

旅行部会

～下関・唐津呼子・博多・長崎七つのご当地グルメを楽しむ北九州3日間の旅 旅行記～

2023年11月12日より北九州3日間のたびを楽しんできました。例によりクラブツーリズムの旅の一部（総勢43名）を利用して川崎会長始め13名で和気あいあいの旅となりました。ここでは旅行中の会員の動きを中心に記したいと思います。

1日目（11月12日）；

羽田空港集合6時25分でしたが、さすが、わが稲門会全員が6時10分には集合。久しぶりの羽田空港がこんなに大きく拡張されていたのにはビックリしました。

ANA451 便搭乗口はターミナルのはずれからバスに乗ってのバスゲートから更にバスに乗っての搭乗でした。7時40分離陸、9時40分佐賀空港着陸。直ちに貸し切りバスにて武雄温泉駅めざして1時間。車中、ガイドさんの声が小さいとわが某A氏の大きな檄が飛びひやひやしました。武雄温泉駅から日本で一番短距離（28分）の西九州新幹線かもめに乗り長崎へ。中華街「龍園」にて①長崎ちゃんぽん、を賞味（東京の味とはちょっと異なったかな）。午後はグラバー園を見学し、唐津を目指す。



大浦天主堂



グラバー園



イカ活け造り

夕食は料亭海舟にて②呼子のイカ活け造り、を堪能。食後、某A氏が昼の歌に残した人生劇場の3番、4番を絶唱、やんやの喝采。宿泊は佐賀唐津ホテルへ。大人しく就寝。

2日目（11月13日）：

朝食はホテルにて③唐津茶漬け、などの朝食buffe、食後、バスにて憧れの太宰府天満宮へ。参道



太宰府天満宮

は外人さん多数の大賑わい。有名な御神牛像の前は長蛇の列。参拝後の帰路、名物の梅が枝餅を買い食い、子供以来の経験をしました。



とらふぐと真ふぐ

昼食は下関へ移動、④とらふぐ、と⑤真ふぐ、の食べ比べ会席を賞味。全員大満足でした。

更に関門海峡から関門トンネル（780M）を九州から本州へお散歩。門司へ



関門トンネル人道

上陸し自由行動へ。バナナの叩き売り発祥の碑の前



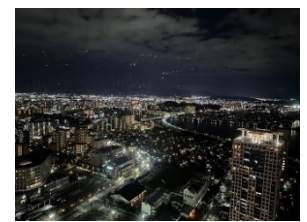
JR 門司駅

でやはり某A氏はバナナの叩き売りを実演。門司駅を見学し、川崎会長発案で門司港レトロ展望台にて巖流島を見ながらコーヒータイムを楽しむ。某B氏はバスで友達になった人と門司港クルーズで別行動となる。

夕食は再び九州、福岡中心地のレングクラブにて⑥明太子、と⑦水炊き、を食して七つのグルメを食



明太子と水炊き



福岡タワー夜景

べつくしました。宿泊は繁華街中洲に隣接するリゾート開発地区のキャナルシティ内にあるホテルにて。チェックイン時にホテルのミスでトラブルが発生しましたが、何とか回復。夜の中洲探検の後、近所のホテルで一杯飲んで就寝。

3日目（11月14日）：

ホテルで朝食後は集合の13時までは自由行動。2



櫛田神社

名は別行動となりましたが、11名は博多総鎮守の櫛田神社へ参拝し、ホテルを11時に出発、福岡空港へ。空港内で各人にて昼食。博多ラーメン

を食した人多かったみたいです。

14時10分発ANA256便にて帰京。15時50分羽田空港着後解散。お疲れ様でした。

旅行部会長 井村 正陽

目黒に移り住んで

吉本政治（1966年 商）
目黒区に移ってきたのは2001年
10月、それまで海外転勤を含め10
回以上引越し、転居してきた。目黒
に住むまでを振り返ってみたい。



志を抱いて故郷（石川県小松市）を出、早稲田大学に入学したのは1962年（昭和37年）。親元を離れての初めての一人住まいは、西武新宿線の井荻駅から5分余り、普通のお宅での下宿。最初、関東の食事の味付けには戸惑ったが、...

2年間食事つきの下宿にいたが、3年生になると、夜の活動も徐々に増えてきたことから、アパートに移った。場所はJR中野駅北口からまっすぐ早稲田通りを超えたすぐのところ。もちろん、まだ中野サンプラザはなく、ごく普通の駅前商店街が伸びていた。自炊は大変だったが、途中の馴染みのお店では、よく半端物をくれたのが有難かった。駅前の大衆居酒屋に出入りし、お酒の味を覚えたのはこの頃である。

大学を卒業し、就職しての最初の勤務地は大阪。職場の同僚と酒、麻雀の独身生活をエンジョイし、1969年に結婚、阪急線千里山にある社宅（職員住宅）で新婚生活を迎えた。翌1970年は大阪万博が開かれ、社宅は会場に近いものだから、夏休みには大勢の親戚縁者が連日泊りがけで万博を見に来た。当時、まだコンビニなんてない時代、女房が朝早く起き、おにぎりを作って送り出し、夜は晩御飯・お風呂の準備等大変な時期だった。

万博終了後に東京転勤となり、東武野田線・江戸川台、京王線・上北沢と社宅住まいが続いた。子供が3人となり、さすがに2LDKの社宅では狭く、1983年3月、田園都市線・青葉台に思い切って家を新築した。周辺には長閑な田園風景が広がっており、朝はゆっくり座って虎ノ門まで通勤できた。

長男・次男が会社勤めを始めると、都心までの通勤が大変とのことで、都内に移ることにした。いくつか見た物件の中で、今の目黒区中根の家が最高、全員一致で引っ越しを決断した。



1976年
チリ・イースター島 モアイ像前で

目黒に移り住むまで、サンチアゴ、サンフランシスコ、ミラノと三回海外勤務をした。

各地で貴重な体験をしたが、サンフランシスコ赴任時（1984年10月）、子ども達は学齢期であった。abcも分からない日本からの学童を受け入れてくれた地元の学校、米国社会の懐の大きさには本当に感謝している。子供たちは数か月ですっかり学校に慣れ、友達も増え、1年もたたないうちに言葉には不



1975年12月
チリ・サンチャゴ国際見本市で
ピノチェ大統領（右から二人目）を日本館に案内

自由なく、伸び伸び育っていった。

《目黒に引越し、そして稲門会との出会い》

目黒に移り住んで22年半、今は女房と二人住まい。楽しい老後を送れているのは何といっても目黒稲門会があるからこそ。2006年に会員になり、以来いろんな活動に参加してきた。旅行部会では、雪の北海道、出雲大社、お伊勢さん、小豆島など素晴らしい旅を楽しんだ。又、ウォーキング、食べ歩き、スポーツ観戦などの活動にも参加、中でも、“よん月会”（現“いち月会”）では先輩方々と膝を突き合わせ杯を交わしたことは、今でも忘れられない。

もし、目黒稲門会がなければ、退屈な、刺激のない日々であることは間違いない。できるだけ女房と一緒に参加、会員との交流を楽しむようにしている。ただ、だんだん体力の衰えを感じ、活動に参加することが減り残念である。

呑川緑道や駒沢公園、近場の美しい街並みの散策は老夫婦にとって安らぎのひと時。目黒に移り住んで本当に良かったと心底思っており、そして目黒稲門会の素晴らしい仲間に出会えた喜びを感じている昨今である。

稲門会に加え、ふるさと会“目黒石川県人会”の活動にも積極的に参画している。ご存じのように、駒場に旧前田邸があり、ご当主も近くにお住まいというご縁もあって、目黒区と金沢市は友好都市協定を結んでいる。いろんなイベントが行われ、私も「いしかわ観光特使」として、ふるさとPR、交流促進に努めている。

「政治・雑感」

永田 耕治 (1961 年 商)



以前会報に投稿するにあたり政治的なこと以外なら何を書いてもいい、と言われた記憶がある。

また、親しい友人たちとの集まりなどの際、「自分は政治にはあまり関心がない」と云う人が結構多い。

そこには、政治に関する話題には触れないほうが無難という意識が働くのかもしれない。

かつて仕事で外国のビジネスマンと話をした際、「彼はポリティシャンだからね」と、皮肉っぽいコメントを何回か聞いたことがあり、やはりどの国でも政治(家)という言葉にはどこかネガティブな響きがあるのだと感じたことを思い出している。

それは国の内外にかかわらず政治を自分の保身や名誉欲、金儲けなどに利用しようとする政治家たちの本性が一般市民に見透かされてしまっているためでもあるのだろう。

そのせいか日本の選挙でも投票率は異常に低く、国民が政治に期待しなくなっている中、庶民の幸せのために働いている真面目な政治家もいると信じている。

一方、現在の食料品やガソリンなどの物価高騰の原因を考えてみると円安による輸入価格の上昇やロシア・ウクライナ戦争によるエネルギー供給の不安など国内政治だけでなく国際政治によっても私たちの生活は大きな影響を受けている。

また、ついこの間まで大騒ぎをしていたコロナのパンデミックが起こった際の国や県の検査対応の仕方や患者の受け入れ態勢の脆弱さなども政治が私たちの命に係わる重要な役割なのだとすることを痛感した。

そう考えていくと政治はまさに「生活」だということに改めて気が付く。

選挙で投票に行きさえすれば政治に対する責任を果たしていると考えている人も多くいると思うが、そのあとのことには関心がないというお任せ民主主義では「政治イコール生活」の質を向上することは難しいと考えるようになった。

(編集部 注記：日常の中での政治に関する記事であり、政治的な主張を述べていない事から掲載しました。)

皆様の原稿を募集しています

海外での体験、今だから言えるお仕事の話、在学中の物語、今も続く部活動の仲間との交流、目黒にまつわるお話等を、ご寄稿下さい

目黒の坂巡り

新茶屋坂

瀬下 智子 (1995 年 文)



前号では、落語「目黒のさんま」の舞台となった茶屋坂を取り上げました。

ところが、現在のバス停「茶屋坂」はこの茶屋坂ではなく、「新茶屋坂」と呼ばれる大通り沿いにあります。目黒警察署付近から目黒川にかかる中里橋を越えてゆるゆると上る坂道、これが新茶屋坂です。

中里橋には、春になれば両側に満開の桜が咲き誇り、ふと足を止める人も少なくありません。

坂下から見あげると、右にそびえるエントツは目黒清掃工場、左は防衛省の艦艇技術研究所(旧・海軍技術研究所)、その奥には住宅街が続きます。街路樹は坂上に行くほどハナミズキやツツジに統一され、スッキリとした眺めを楽しむうちにビール工場のあった恵比寿ガーデンプレイスにと続きます。

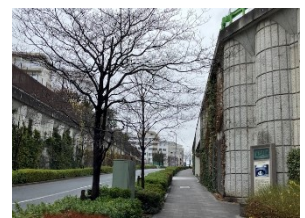
父母がともに元気で存命だった頃、家族4人で最後に暮らしたのが、この新茶屋坂沿いでした。父は中里橋からの桜を好み、自慢のカメラに収めては玄関に飾りました。その玄関で、父を仕事に見送る日々は突然終わりましたが、家族で歩いた思い出の坂道です。

さて、この「新茶屋坂」は、本来の茶屋坂が奥まった場所にあるのを補う大通り、、、というだけではないのです。ここに江戸時代から昭和49年まで延々300余年にわたって、江戸の六上水のひとつ・三田用水が、農業用水、ビール工場用水として地域を潤していました。

三田用水跡地のトンネルは、役目を終えて平成15年に撤去されました。撤去というと寂しいですが、開放感ある気持ちの良い坂道が生まれたのです。皆様もぜひ一度、歩いてみてください。



新茶屋坂 (2023.10撮影)
目黒川にかかる中里橋から、恵比寿方面へ。右にそびえる煙突は目黒清掃工場。右側が目黒区三田、左側が同目黒



三田用水跡地の碑
上水を渡したトンネルの跡



碑の銘板 拡大写真
写真には用水路が見える

会員ギャラリー

『夢の島マリーナ』 水彩

大杉 邦雄 (1965 年法)



秋晴れのお昼時、夢の島マリーナにて休憩中のヨット群を描く。水面に映る艇の影、マストの影が印象的だった。

『笠間焼』 陶器

後藤 克彦 (1967 年 文)



左上：蜻蛉
左下：葡萄

右上：泳ぐ鯉
右下：小さな茶碗

笠間の家で遊びで作った作品です。隣には有名な陶芸家の窯があり、気が向いたら作陶した愚作品を焼いていただいています。

新入会員

三沢 美奈子 (1978 年 教育)

(目黒区青葉台在住)



10 月のホームカミングデーに参加して、当会を知りました。昨年 3 月まで 40 年ほどサラリーマン生活を送りましたが、退職してようやくいろいろな輪を広げていく時間ができるようになりました。

ありがとうございました。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

広井 幹也 (1974 年 政経)

(目黒区碑文谷在住)



卒業して早 50 年、昨年の稲門祭で目黒稲門会の存在を知りました。そして、昨年の 9 月で現役を引退して、現在はバイトしております。

趣味である音楽(フォークソングなど)を軸に、地域の同好の方々と交流したいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

平田 結莉 (2012 年 スポーツ科学)

(豊島区池袋本町在住)



この度、素敵なお縁から石橋義久様に目黒稲門会をご紹介いただき入会させていただきました。大学時代はバレーボール部(女子部)に所属してお

り、現在は携帯電話会社で働いております。

平日は仕事ばかりではありますが、一度だけの人生、沢山の方々とお話し、多くの価値観を学びたいと思っております。

皆様とお会い出来ます事、心より楽しみにしております。

猪瀬 竜馬 (2010 年 教育)

(目黒区下目黒在住)



1/8、大鳥公園の横の下目黒住区 C でこちらの存在を知りました。

2010 年に早稲田大学教育学部卒業後、大手化学メーカーにて営業・マ

ーケティングを経験。2017 年より米国で数年間営業 DX を実施。2018 年スペイン IE Business School にて MBA を取得。2020 年に amptalk 株式会社を創業。Zoom などの書き起こしや電話・商談解析のソフトウェアを開発販売。

新年会でお会いできるのを楽しみにしておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

安藤 雅敏 (1995 年 理工)

(目黒区南在住)



私の良い点は、真面目、緻密、やさしいところです。

この度、ご縁があつて入会させて頂きたいと考える様になりました。

どうぞよろしくお願い致します。

新家族会員 (敬称略)：福島 理生

編集後記

もえいづる春の息吹を感じる季節になりました。多種多様な部会の活動が再開し、活性化し、皆さんが交流をしている会の息吹を、ここにお届けします。

新年に被災された方々にお見舞い申し上げ、会も幸多き年で締まる様にと今から願うばかりです。(細谷記)